第24回グラフィックアート『ひとつぼ展』 一坪展 公開二次審査会 REPORT





『ひとつぼ展』史上稀に見る横一線の混戦 社会的にタイムリーな作品が頭ひとつ抜け出す グランプリ受賞 太湯雅晴

日時 2005年2月17日(木) 18:10~20:40

会場 リクルートG 7 ビル B 1 セミナールーム

審査員 50音順・敬称略

浅葉克己 (アートディレクター) タナカノリユキ (アーティスト/アートディレクター) ひびのこづえ (コスチューム・アーティスト) 若尾真一郎 (イラストレーター)

大迫修三 (クリエイションギャラリーG8)

出品者 50音順・敬称略 池田哲夫 岩松翔太

川上恵莉子 桑原英里 鈴木清美 西野正将 高橋弘子 米窪雄介 太湯雅晴 峯岸佳世

2005年2月7日(月)~2月24日(木)









「審査員を意識し過ぎている」みんな差がない」

予定の午後6時を過ぎても公開審査会場には10人の出品者、5人の審査員いずれも入ってこない。全員まだ展示会場で、審査員が一人ひと りの作品を入念にチェックしている最中とのアナウンスが流れる。ということは、展示作品の審査が難航しているということか。一般見学者 が始まりを今か今かと待つこと 20分。緊張した様子の出品者に続いて、審査員が入場。全員が席に着いて、いよいよグランブリを決める公開審査会が始まった。各出品者が自分の声で自作を説明するプレゼンテーションの概略は以下の通り。

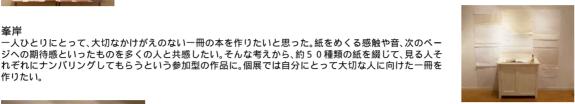
文字を用いて自分を表現したいと思った。なぜなら、文字は言葉の意味以上のものを伝えることがあるから。自己表現としての文字を追求したら、スケジュール帳に行きついた。そこには、さまざまな文字がさまざまなカタチとなってあらわれる。個展プランは、いろんな人のスケジュール帳をモチーフに、さまざまな人の 時間を切り取って見せたい。

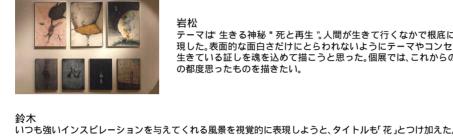




桑原

私にとってのパラダイスは、すべての生命が笑い、愛し合い、生き生きとしている世界。そんな楽園にトリッ プすることができるような作品を2年間かけて描いた。原画は大きいので、展示物はその1/4サイズにして プリントアウトしたもの。見る人がパワーを感じるような表現をめざした。個展は壁も床も天井も作品で覆 い尽くしたいと思う。



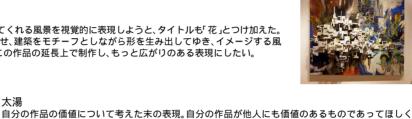


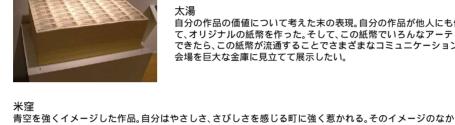
テーマは"生きる神秘 " 死と再生 "。人間が生きて行くなかで根底にある「喜び」や「哀しみ」を絵で表 現した。表面的な面白さだけにとらわれないようにテーマやコンセプトを深く追求して、自分自身の 生きている証しを魂を込めて描こうと思った。個展では、これからの一年でいろんなことを感じてそ の都度思ったものを描きたい。



作りたい。

立体のコラージュと平面画を組み合わせ、建築をモチーフとしながら形を生み出してゆき、イメージする風景に近づけていった。一年後の個展もこの作品の延長上で制作し、もっと広がりのある表現にしたい。





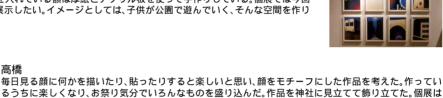
太湯

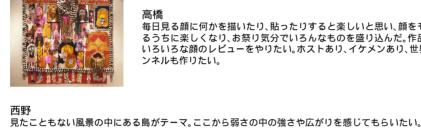
て、オリジナルの紙幣を作った。そして、この紙幣でいろんなアーティストの作品を購入することができたら、この紙幣が流通することでさまざまなコミュニケーションが生まれると思った。個展では 会場を巨大な金庫に見立てて展示したい。



にある町の風景を絵にした。絵を入れている額は厚紙とアクリル板を使って手作りしている。個展では今回 たい。

の作品を含めて40点くらいを展示したい。イメージとしては、子供が公園で遊んでいく、そんな空間を作り





いろいろな顔のレビューをやりたい。ホストあり、イケメンあり、世界中の顔あり、髪の毛を集めたヘアート ンネルも作りたい。



自分で思い描いた風景を絵にしたり、ジオラマを作って見る人のイマジネーションを膨らませたい

と思った。個展では、映像や写真を組み込みながら、身近なものを題材に島の風景を作ってみたい。



池田

火を灯し溶ける様がきれいなので、個展ではその様子も映像で流したい。一つ一つの作品を独立した 形で展示したい。

いかな。もっと自分が信じたものを出してもいいと思う」との感想。若尾さんば「うーん、悩んでいます。まだ、どれも決め手がないね」と迷っている様子。 ひびのさんば みんな差がないですね、一年後の個展に向けてよりもこの『ひとつぼ展』で勝負してほしかった」と困惑ぎみ。浅葉さんば 作品が多様化し

全員のプレゼンを聞き終えて、まずは審査員一人ひとりに全体の感想を語ってもらった。

てきたね。いろんな方向があっておもしろいと思う」と言えば、「しかし、これといった決め手のある作品はなかった」と大迫さんも的を絞りきれない。 「社会的にタイムリーだった」笑わせてもらいました」

今回、初審査となるタナカさんば、ポートフォリオよりも実物の展示作品を見ることができて良かった。ただ、みんな審査員を意識し過ぎているんじゃな

の作品について。 「すごく大人な考え方の仕事ができていると思う、今すぐグラフィッ クデザイナーとしてもやっていけそうだね。ただ、昔のいいタイ

こで、一人ひとりについて意見交換が行われた。

ポグラフィーに似ているところもある」とタナカさんが評価すると、 「言葉、文字、タイポグラフィー、どれもすごく完成度が高いね」と 浅葉さんも同意見。一方、若尾さんは「プレゼンでのコンセプト説 明がわかりにくかった、展示をもう少し3次元4次元に発展させ

まずはトップバッターとしてプレゼンテーションした川上さん

るとかの工夫があってもよかった」と言えば、ひびのさんも「『ひ とつぼ展』として、あの展示方法が有効だったとは思わない」と展 示についての注文もあった。大迫さんから「ちょっとオーソドッ クスにまとまっていたね」との意見も。 次に桑原さんの作品について。 タナカさんが、今の時代に何年もかけて作品を作るというのは、ちょっ と狂気的で有意義なこと。時間の使い方として圧倒的にすごいと 思う。クリエイティブの根源的なエネルギーが感じられる」と言

えば、若尾さんが「イラストレーションとしては、やや類型的な表 現のような気もする。もっと自分らしさを掘り下げたほうがよかっ

た」と表現に触れる。ひびのさんは「プレゼンで展示作品とは別に 原画を見せることはどうだろう?」と疑問を投げ掛け、「モチー に新鮮さがなかった」とも。浅葉さんは「方向性はいいと思う、圧 倒的な量感がいいね」と評価。続いて 峯岸さんの作品について。 「ポートフォリオが良かったので実物で少しがっかりした。参加 型ということを意識しすぎたのかな。もっと現物の感触を楽しみ たかった」とタナカさん。「参加型といっても数字を刻むだけでは 物足りな過ぎる」と浅葉さんも手厳しい意見。「もっと好きなこと

を徹底的にやってほしかった」とひびのさん。 岩松さんの作品について。

「手で描いたものは自分らしさが出ていると思う、デザインを絵 の中に入れないほうがよかった」とタナカさん。浅葉さんば 墨絵に期待が持てるね」と評価すると、若尾さんも「コンセプトや考え

方は良かった」と好印象。「ちょっとテーマが重かったかな」と大 迫さんが言うと、ひびのさんは「なかにはちょっとフッ切れそう なものもあった、もっと自分を壊す気持ちで」とアドバイス。 鈴木さんの作品について。 タナカさんが「既視感がある、海外のアーティストがやっている こと。いろんな影響を受けるのは良いが、好きだけじゃないとこ

ろまで突き詰めてやってほしい」と指摘すると、ひびのさんが「何

かに似ていてもいいと思う、本人らしさが出ていないのが一番残念。 この先、自分を壊していってほしい」と続ける。「タイトルを直前

で変えてみたり、本人が迷っていたね」と浅葉さん。大迫さんが「ド

太湯さんの作品について。 「社会的にタイムリーだった。それにグラフィックデザインとし てオリジナルな表現ができていると思う」とタナカさん。「お札自 体に魅力があるのか? 今後どう発展させていくんだろう?」と ひびのさん。「いろんなお札のバージョンを展示

ローイング自体はいいと思うけど、ここで展示されるとどうだろ

う」と言えば、「新鮮なものを出してほしかった」と若尾さん。

するのかと思ったら、こう来たかという感じ」と大迫さん。若尾さ んも「展示も考え方も良かった」と言うと、浅葉さんも「世の中を よく捉えていると思う、もっとたくさんの量を作ってほしいね。 金庫室にも入ってみたい」と笑顔で語る。 米窪さんの作品について。

タナカさんが 青い空を基調とした孤独感がいいと思う、ポートフォ リオにあった新作よりもこちらの表現がいい」と言えば、浅葉さ んは「これよりも新作のほうがいい」と反対意見。若尾さんは「新 しいチャレンジはいいと思うが、自分も新作よりこちらがいいと 思う」との意見。「この表現で見つけたものをもっと掘り下げてみ

ては」と大迫さん。「構図と画の切り取り方がいいと思った」とひ

タナカさんが開口一番「笑わせてもらいました。展示と本人のキャ ラクターが一貫しているのもいい。これはもう立派なアート作品

ですよ、十分コミュニケーションできている、今の勢いそのまま に突き進んでほしい」と絶賛すると、ひびのさんも「ポートフォリ オは気に入っていた。今回の展示は良い意味で裏切られて気持ち 良かった」と笑顔。大迫さんも「作りたいという欲求が感じられた」

高橋さんの作品について。

びのさん。

と言えば、「底知れない写真の良さがある」と若尾さん。浅葉さん にいたっては「今日、この写真のように顔にメイクして本人が登場してくれば良かったのにね」と冗談とも本音とも取れる発言。 西野さんの作品について。 タナカさんが「ポートフォリオは評価していたが、この展示では 自分の良さが失われていた。もっとアイデアで突き抜けてほしかった」と言い、大迫さんも「コンセプチュアルなのに表現が物足りな かったね」と同意見。ひびのさんは「このなかではタバコの箱で島 を作ったものが好き、もっと自分のやりたいことを思いきってやっ てもよかったのでは」と言及。

池田さんの作品について。

「不思議な絵がイマジネーションを広げた、もっと大量に展示しても良かったと思う」とタナカさん。「『ひとつぼ展』ならではのも のを見たかった、プレゼンでもっと主張するべきだね」と若尾さん。「"自分の世界でやる"という姿勢が気に入った」とひびのさん。「もっ と本気で描けばいいと思う」と大迫さん。

「……」一年後の個展を見たいのは誰か」 全員に対する意見交換が終わったところで、それぞれの審査員が3名ずつグランプリ候補を発表。その結果は、

浅葉 / 川上 タナカ / 桑原 高橋 川上(0.5票) 太湯(0.5票) ひびの / 桑原 太湯 高橋 米窪 若尾 / 太湯 高橋 大迫 /川上 桑原 米窪

米窪/3票

大迫さんが得票数を読み上げると「.....」審査員一同、しばらく沈黙。ここで

高橋 / 3票

もまだ決め手に欠ける様子。そこでタナカさんが「要は一年後の個展を見た いのは誰か、ということですね」とグランプリの意味を再確認する。一同、ま た沈黙。そして、今度は2名ずつグランプリ候補を挙げることになった。

桑原 / 3票

高橋 / 3 票(タナカ、ひびの、若尾) 桑原 / 2 票(タナカ、大迫) 太湯 / 2 票(浅葉、ひびの) 米窪 / 2 票(若尾、大迫) 川上 / 1 票(浅葉) この結果から、1票しか入らなかった川上さんが落選。3票とトップの票 を集めた高橋さんは最終決戦へ残り、2票で並んだ桑原さん、太湯さん、米 窪さんの3人からさらに絞りこむことになった。ここで3人に対する応援

これを集計すると、

川上 / 2 .5 票

の360度に展示される作品の中に身をうずめてみたい」と言えば、大迫 さんも「このまま描き続けたらどうなるか見てみたい」と絵のスケール感 に期待。それぞれの意見を聞いたところで、この3人の中から最終決戦ノ ミネート者を選ぶことになった。

太湯 / 2 票(浅葉、ひびの) 米窪 / 2 票(若尾、大迫) 桑原 / 1 票(タナカ)

ここで2票ずつ入った太湯さんと米窪さんが最終決戦へ。1 票の桑原さ

んが落選。あらためて高橋さん、太湯さん、米窪さんの3人の中からグラ

ンプリを決めることになった。そして高橋さんに対しての応援演説をタ

と見てみたいよびびのさんが「この作品は今見ないとダメだと思って入

れた」とタイムリー性を強調。桑原さんに票を入れたタナカさんが「会場

ナカさんが 個展でどうなるか見えないところがいい、今までのひとつば展』になかったものが見られそう」と語り、いよいよ審査員一人ひとり がひとりだけをズバリ表明することに。

「審査員の皆様ありがとうございます、今まだ手が震えています」

演説をしてもらう。米窪さんに票を入れた若尾さんは「町というテーマ、こ

のスタイルで描かれた絵をもう少し見てみたい。大迫さんば、今も表現として十分成立しているが、一年後の成長を期待したい」と共に個展への期

待感が強い。続いて太湯さんへの応援として浅葉さんが「あのお札をもっ

太湯 / 2票(浅葉、ひびの)、高橋 / 2票(タナカ、若尾)、米窪 / 1票(大迫) またしても、太湯さんと高橋さんが2票ずつで並び決着がつかない。1票 の米窪さんが落選して、米窪さんに入れていた大迫さんが、太湯さんか高橋さんに投じることに。大迫さんは迷った末に「太湯さんにします」と表明。 かくしてタイムリーな作品の太湯さんが大混戦レースから頭ひとつ抜け 出し、グランプリを受賞した。審査会の最後に「審査員の皆様ありがとうる ざいます、今まだ手が震えています」と挨拶した太湯さんに一年後の個展 へ向けての抱負を聞いた。「実感はまだ湧きませんが、正直これからが大変 だと思います。ひびのさんが美しい作品と言ってくれたのがうれしかった。 もっとブラッシュアップします」とまだ緊張した表情で語った。一方、プレゼンで会場を沸かせ、惜しくも最後の最後で僅かにグランプリに届かなかっ た高橋さんば、まさかここまで残るなんて思っていなかったので参加でき て楽しかった。審査員の皆さんに評価されて勇気づけられました」と悔し さの中にも楽しそうに答えてくれた。最後の3人に残った米窪さんは「グ

ランプリ作品は今までにありそうでないもの。自分は審査員の方に評価 していただいた町の風景をもっと突き詰めたい」とサバサバした表情。桑原さんは「公開審査はドキドキした。今のスタイルを続けていきたい」と自信を得た表情。川上さんは「こうして作品を展示するのは難しかった。 早くプロのグラフィックデザイナーとして仕事していきたいです」と将 来を見つめる。峯岸さんは「やりたいことはやれました。自分のやりたい ことを追求したい」とホッとした表情。岩松さんは「自分でもまだまだだ と思う、これをバネにして頑張ります」と前向き。鈴木さんは「いろんな人

の意見が聞けたのがよかった、やりたいことは決まってますから」とふっ切れた様子。 西野さんば 悔しいけれど自信にもなった」とやりたいこと

を再確認したという。池田さんは「プレゼンの準備不足が反省点」とくや

というコメントが印象だった。

むが作品には満足そうな様子。いつもより長い審査会、もつれにもつれた 末のグランプリ決定。グランプリ受賞の太湯さんにタナカさんが言った「世 間を騒がせている偽札ラッシュに負けないようなパワーを期待したい」 文中一部敬称略 取材・文/田尻英二